

「未来の大学生応援募金」2015年度第2次義援金贈呈高校からのお礼状

2013年3月～10月にかけて、大学生協震災復興再生タスクでは、東日本大震災の被災地、岩手・宮城・福島にある高校のうち、津波と福島第一原発事故による被害の大きかった高校43校に対して「未来の大学生応援募金」(1校25万円)をお贈りしました。その後2015年9月までに募金額が300万円を超えたのを機に、2015年9月末、第2次として3県の高校30校に各10万円を贈呈いたしました。

継続して募金活動に取り組まれている皆さまと、募金をお寄せ下さった多くの会員生協に対し、高校から多くのお礼状が寄せられています。是非ご一読ください。

拝啓。秋涼の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、多大なるご寄付を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。本校においては、平成23年3月に発生した東日本大震災とそれに引き続く原発災害から4年半が経過し、ようやく落ち着きを取り戻しつつありますが、未だ仮設住宅から通学している生徒、PTSDの悩みから心のケアが必要な生徒などもおり、震災の影響から完全には抜け出せない状況にあります。このような中で頂戴いたしましたご寄付は有効に活用させていただき、より一層の教育環境の充実を図るとともに、相馬地域はもとより、日本の将来を担う優秀な人材の育成に取り組んでまいり所存でございますので、引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に貴連合のますますのご発展を御祈念申し上げ、御礼のあいさつとさせていただきます。敬具。

(福島県立相馬高校校長 日高裕志)

この度は、ご支援いただきありがとうございました。生徒の就学等進路達成のため、有効に活用させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(石巻市立桜坂高等学校校長 齋藤繁)

拝啓 秋涼の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育活動にご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、このたびは貴団体「未来の大学生応援募金」から多大な義援金をいただき、まことにありがとうございました。先日上記義援金を本校教育振興会の銀行口座にお振込みいただきましたことをお知らせいたします。今回ちょうどした義援金は被災生徒の奨学資金として有効に使わせていただきたいと思いますと考えております。さて、東日本大震災から4年半が経過しましたが、本校の生徒たちは学習活動をはじめ様々な活動に意欲的に取り組んでおります。また、貴団体をはじめとするさまざまな団体からいただいた数多くの心温まるご支援、そして皆様方の思いに応えるべく、本校教職員、生徒ともに今できることを精いっぱい行っていこうと考えております。最後になりましたが、今後も教職員及び生徒一丸となり、地域の復興を目指して頑張りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。このたびは誠にありがとうございました。

(宮城県気仙沼高等学校校長 小山淳)

まさに秋天高く青空が輝く季節でございます。皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、東北の大学生協様の「未来の大学生応援募金」の取組みによる義援金を確かにいただきました。皆様のご厚意に衷心より御礼申し上げます。市街地は徐々に復興の道を歩いておりますが、それぞれのご家庭の事情はなかなか好転し難いのが現実です。本校生の実態も例外ではありません。皆様の思いをしっかりと受け止め、生徒たちの大学進学のをサポートしてまいります。本当にありがとうございました。（宮城県気仙沼東稜高等学校校長 川田守）

秋冷の候、貴会ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、震災以降本校にお寄せいただいておりますご支援に厚く感謝申し上げます。

さて、この度は「未来の大学生応援募金」によるご支援を再び賜り、改めて感謝申し上げます。本校は、東京電力第一原子力発電所の事故に伴う学校避難から5年目を迎えましたが、「国際・スポーツ科」というスポーツを一つの核とした学科であるため、選考種目のすべての授業環境を1か所で確保することが難しく、現在も119名の生徒が4つのサテライト校（福島市、猪苗代町、いわき市、静岡県三島市）に分かれて学校生活を送っております。このような中において課題となるのは、同じ学校の生徒としての一体感や帰属感が薄れがちになるということです。このため、これらの意識を醸成するため、生徒が一堂に会する機会を年に数回設けておりますが、このうち「富高の集い」は、寝食を共にしながら様々なプログラムを展開することを通して生徒の一体感を高める行事として、夏と冬の年2回実施しております。今年4月、双葉郡広野町に「ふたば未来学園高校」が開校しました。これに合わせ本校を含む双葉郡の既存5校は今年度から募集を停止し、現在の2年次生が来年度卒業するのをもち休校となります。サテライトのままの休校となりますが、卒業生が富岡高校の生徒であったことに誇りをもって巣立てるよう、最後まで教職員一丸となって生徒の教育・指導に当たってまいることをお誓いし、御礼のあいさつといたします。

（福島県立富岡高等学校校長 山崎雅弘）

謹啓 秋冷の候、貴生協におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。今回、貴生協より多額のご支援金（十万円）を賜り、誠にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。

本校は、情報海洋科、産業経済科、機械技術課の一学年三学科からなる県立の専門高校ですが、平成23年3月11日の東日本大震災による津波によって校舎をはじめすべての施設を焼失しました。その後、気仙沼高校第二グラウンドに建てた仮校舎に移転し、校舎棟二棟、実習棟三棟、体育館一棟を使って、それぞれ専門教科のプロフェッショナルである先生方によって、実習や実験、授業の指導を行っています。しかし、まだまだ学習活動の環境は十分ではありません。情報海洋科のダイビング実習は、外部施設のプールをお借りして実施しています。また、体育の授業や部活動も、近隣の学校や気仙沼市の体育館やグラウンド等の施設をお借りして行っています。このような状況でも、生徒たちは充実感を持って、工夫しながら諸活動に取り組んでいます。今年度の生徒数は本科生、専攻科生あわせて355名が在籍し、ひとり一人が精いっぱい持てる力を発揮し学校生活を送っています。中でも部活動の活躍は目覚ましく、6月の宮城県総合体育大会ではラグビー部、ヨット部、卓球部が勝ち進み東北大会に出場しました。文化部においても、若年者ものづくり競技大会フライス盤部門で、機械技術科二年男子生徒が、宮城県代表として出場し、全国七位という好成績をおさめ敢闘賞を獲得しました。新校舎の完成は平成三十九年度ということでまだ復興途中にはありますが、今後も招待を担う産業人材の育成に向けて、教職員一同さらなる努力をしていく所存でございます。本来なら拝趨のうえ御礼申し上げるべきところでございますが、書面を持ちまして御礼の言葉とさせていただきます。

（宮城県気仙沼向洋高校校長 千田健一）

仲秋の候、貴団体におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。この度、貴団体から、本校支援のために義援金を贈呈いただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。

大震災から4年7か月が経ちましたが、大槌町内は、盛り土工事のための車両がひっきりなしに往来しております。町内を見回せば、盛り土工事だけが目立ち、町並みの復活にはまだ時間がかかりそうな状況です。さらに、本校生徒のうち、現在でも仮設住宅に住んでいる割合が約4割と、まだまだ厳しい環境に置かれていると言えます。そうした中、本校は、貴団体をはじめ、全国からの多くの支援に励まされながら、高等学校としての教育活動に取り組んでいるところです。また、普通高校としての教育活動はもとより、被災地の学校として復興の状況を全国に発信すべく、生徒融資の集まりである「復興研究会」の活動を中心に、全校を挙げて復興教育に積極的に取り組んでいます。特に「まちづくり」の活動については、大槌町のご協力をいただきながら、年に数回ワークショップを開き、まちづくりについて本校の生徒がさまざまな提案を行うなど、復興教育の特筆すべき活動になっています。

ある交流会の時、本校の生徒が、他校の生徒から「どのような支援がうれしいですか」と聞かれ、「何かの支援というより、とにかく被災地のことを忘れないでいてくれることが一番うれしい」と答えている場面がありました。この度、貴団体からの支援の声をいただいたことは、まさに、このような生徒の思いを叶えていただいたと感謝しております。いただきました義援金は、本校にとって大きな支えになるものであり、生徒の進路目の実現等、教育活動の充実に役立つよう有効に活用させていただきます。今後とも、本校の教育活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末尾ながら、貴団体のますますの発展を祈念いたしまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。

(岩手県立大槌高等学校校長 小田島正明)

つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生生活協同組合連合会

大学生協東北ブロック

仙台市青葉区柏木1丁目1-41 大学生協仙台会館

電話 022-717-4866